

「非行」「犯罪」……日々のニュースの中で、この言葉を耳にしない日はありません。中でも私が不安になるのは、同年代の若者が起こす事件を耳にしたときです。この夏休みにも窃盗や暴走、傷害などの事件が報道されていました。私の身近な所で大きな事件は起こっていません。しかし、長期の休みの前には、万引きや飲酒、喫煙などをしないように、先生から必ず指導があるということは、私の身の回りに、非行の誘惑は潜んでいるということなのでしょう。私自身は、今までに非行の誘惑を受けたことも揺らいだこともありません。もし……と考えるみても、私には悪い方向へ踏み出すことへの勇気がありません。

では、なぜ非行に走る若者が後を絶たないのでしょうか。非行に関する記事をよく読んでみると周りの環境やその人の心身の状態が関係していることが多いようです。家庭内や親子関係の問題、学校の友達関係や学習への悩み、中にはいじめられたことから非行に走った事例もありました。心が傷つき、繰り返される絶望や憎しみが、正しい判断を奪ってしまったのでしょうか。

そう考えると、非行は、私にとっても決して無関係なことではありません。たしかに私たちが家庭内の問題に関わっていくのは難しいことです。しかし、学校生活や地域の中でできることはあります。

私たちが一日の大半の時間を過ごす学級を見直し、一人一人の仲間に目を向けてみると、実は日々小さな変化があります。「今日は元気がないなあ」「朝からずっと机にうつぶせて寝ているなあ」「一人ぼっちで過ごしているなあ」……。そんな仲間に、声をかけているでしょうか。私もいろいろな悩みがあつたり嫌なことがあつたりすると、気持ちがふさいでしまうことがあります。もちろん、友達に言いにくい悩みもありますが、それでも明るく声をかけてもらうと、気持ちが晴れやかになります。

また、私たちのクラスでは、登校して教室に入るときに、挨拶をして入り、教室の仲間が挨拶を返すことが習慣になっています。

「おはよう」と声をかけると「おはよう」と仲間の声が返ってくる。当たり前のように、自分が一人ではないことを実感できる瞬間です。

非行に走ってしまう若者も、きっかけは小さなストレスや小さな孤独感だったのかもしれませんが。お互いを思いやり、声をかけ合う仲間の中にいれば、非行のブレーキになったかもしれないのです。日頃から分け隔てなく挨拶を交わし、楽しく会話できる仲間の輪を広げていくことが大切です。

非行に走っている若者は、よく「夢なんてない」と言っています。私もまだまだ将来をはっきりと決めているわけではありません。それでも、勉強や部活動で小さな目標を持って、努力をしてきました。例えば、テストの点数が悪いと落ち込みますが、同時に「次こそはがんばろう」と目標を持つことで、気持ちを切り替えることができます。小さな目標達成の積み重ねが夢につながるのです。大きな夢や目標でなくてもいいのです。自分だけの身近で小さな目標を持ち、それを達成していくうちに、きっと大きな夢が生まれてくるはずです。

今回、非行について考えながら自分自身を振り返ってみると、本当に多くの人の支えでまっすぐに歩いてこられたことに気付きました。日頃は当たり前になってしまい、忘れがちですが、本当に幸せなことです。目標や夢の達成に向かえるのも、家族や仲間の支えや励ましがあるからです。

私と同じように、だれもが支えられ、励まされ、応援されています。非行に走る若者には、その声や思いが届きにくくなっているのかもしれませんが。みなさんの周りにも、苦しくて、孤独で、周りの支えを見失っている仲間はいませんか。「支えられているからこそ、自分も支える」という気持ちを持って、お互いに気軽に声をかけ合いましょう。私たちのささやかな声と笑顔が、明るい社会につながると信じて。